

確かなまなびと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 三国丘幼稚園
園 長 井上 朋子

令和6年度 重点目標
○3, 4, 5歳児の発達と学びの連続性を意識する ○幼児期の終わり（小学校就学前）までに育みたい視点の共有 ○研究実践園の取り組みの充実 ○早期支援の観点の共有

まなびの現状 意欲的に自分で遊びを見つけ広げられる子、友達遊びを真似して遊んでみる子、教師が誘ったら一緒にしたり遊びを見つけたりする子、遊びに興味をもちにくくじっとしている子、いろいろなものに興味の対象が移る子など様々な幼児がいる。一人ひとりが自分の思いを様々な形で表出しており、特に大人に対して積極的な関わりを求める幼児の姿からは、家庭で愛されて育っていることが感じられる。家庭の愛情や人への信頼感を土台に、友達やクラス集団の中でも自分の思いを発信し、互いに遊びや生活をつくりだしていけるような姿を育みたい。今年度も、一人ひとりの特性を理解した支援の工夫や、幼児の自立や自己充実感につながるような親子の関わりの啓発も併せて、幼児が主体的に人と関わる力を育てていきたい。	こころ・からだの現状 園内では、遊びや活動を楽しんでいる状況が多くみられる。自発活動ではほとんどの園児が好きな遊びを見つけて園庭でからだを動かしている。発育、発達上で個別の配慮や支援を必要とする幼児もあり、一人一人を正しく理解するとともに、集団の中での共生の教育をより一層進めていくために、遊びの中でお互いを分かり合い認め合う仲間づくりをめざして教育活動を進めていく。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （重点とする取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～10月）	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	遊びを通して学びの育成	主体的・意欲的に遊ぶ中で友達と関わりを通して学ぶ幼児を育成する	一人ひとりの幼児の興味・関心を深める教師のかかわり方や環境構成を工夫する	幼児の変容を保護者アンケートや園内会議で検討、判断	個別徴収と書面による評価内容	年間	○ ・運動会では、一人ひとりがめあてをもって、継続して取り組み達成感を味わった。また、支援を必要とする幼児も友達の援助でリレーに参加することができた。また、自分なりのめあてをもってがんばり自信につながった。 ・運動遊びでは、幼児が日々の活動で表現遊びを楽しんでいた動物になって、教師や友達と一緒に運動遊びに取り組むことができた。できたという満足感を味わったことで自信につながった。 ・つくってあそぼうでは、友達と協力してつくりあげる、個人でこだわりをもってつくなど、様々な素材に触れて活動する中で試行錯誤しながら取り組む姿が見られた。自分で表現する楽しさを感じることができた。	○ ・つくってあそぼうなど様々な活動を通して、自分で考えること、友達と協力して遊びを進めることなどができるようになってきている。諦めない気持ちも育っており、継続して物事に取り組む力がついてきたと感じている。 ・やりたいことを見つけ、自分なりに試行錯誤を繰り返しながら、イメージしたことを実現させようとする姿が見られた。友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じながら、やり遂げた満足感を感じられるようになっているなど、幼児の成長している姿を保護者の方も実感されていることがアンケート回答からも見てとれる。	○ ・アンケートの「毎日楽しく園に通っている」の項目の肯定的な回答がすべてかなと思う。自分自身もそうだが、自由記述のところで「親子共々楽しく通っている」というところがすごいと感じた。 ・進級時は不安なところもあったが、様々な行事を経て子どもたちは年少から3年間で慣れる存在から慣れられる5歳児に変身した。 ・劇あそびは自分たちで作り上げることで、役割をわかって演じていることに親も感動した。感謝の気持ちである。
	保育力の向上	3年間を見通した教育課程の研究と教師の実践力の向上を図る	今年度の研修目標を目指し研究保育を通して実践的に学ぶ	研究保育の事後研での指導講評、公開保育時のアンケートの総括	個別徴収と書面による評価内容	年間	○ ・10月までに2回（3、4歳児）の研究公開保育を実施した。各回15名超の他園所、小学校の先生方の参加があり、各年齢の関わりや育ちの実態や主体的な遊び環境の良さについて様々な意見交換ができた。11月に5歳児の研究保育と、引き続き常磐会短期大学ト田教授の講話を受けて学びを深めたい。	○ ・11月の5歳児の保育と合わせて計3回の公開研究保育を実施し、様々な先生方と意見交換をする中で、3年間の幼児の育ちや公立園としての良さを多面的に自分たちが実感することができた。 ・公開保育アンケートにおいて、幼児たちの育ちや主体的な姿、取組や教師の関わりについて肯定的な意見を多く頂くことができた。	○ ・子どもを通して親が育つように先生も子どもとのやり取りの中で向上していったのを感じた。 ・一人ひとりの個性をはぐくむ教育は評価に値する。自己選択し決定する姿をフォローしていくことは小学校の学びへもつながっていく大切な関わりだと思う。
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	自然や生き物に触れて感動する心を育てる	四季折々の自然の変化を素材にし身近な事業への関心を高める（近隣公園への散歩、登降園時の発見を生かした活動など）	興味関心の深まりを幼児の変容や保護者アンケートから検討、判断	個別徴収と書面による評価内容	年間	○ ・登園途中にバッタを捕まえたり、家庭で見つけたチョウの幼虫をもってきたりと、身近な生き物に関心を寄せていた。 ・ブロッコリーや大根の生長を喜び、自分でアオムシをとり「あおむしもおなかがいすいっているのかな」と心を寄せている。	○ ・寒い朝には氷を見つけたり、自分たちで氷をつくったりと冬の自然を楽しんだ。このように、四季それぞれの自然に触れて遊ぶことを楽しんだ。 ・植物や野菜の栽培を通して、身近な植物に関心をもったり、野菜の収穫したりすることができた。	○ ・自然現象も含めて成功体験と同じくらい失敗体験も大切。いろいろなことを通して経験する中で豊かな心が育つ。成功体験だけではあまり振り返らないのでは。
		動植物の生態に感動する場面に接することを通して命を大切にする心を育てる	動植物の生態に感動する場面に接することを通して命を大切にする心を育てる				○ ・夏野菜の収穫をしたり、冬野菜や球根を植えたりするなどして植物の世話をして生長を観察することができた。 ・旧天皇貯水池に虫取りにでかけ、バッタを捕まえたりトンボを追いかけたりするなど、身近な虫に触れる機会があった。	○ ・いろいろな虫を飼い様々な場面を観察し、成長を楽しんだり命について考えたりすることができた。 ・学校アンケートの「植物の栽培や身近な生き物の飼育などを通して、命を大切にする心を育てている」の項目では99%の肯定的な回答をいただけた。	○ ・幼稚園でみんなで意見を出し合って友達はこう思うんだと考える機会があるのがいいと思う。

	健やかな体の育成	日ごろからの保健・衛生意識をもち、力いっぱい活動する意欲を育てる	保健行事や衛生の啓発を通して健康への意識を高める	衛生（手洗い、トイレ等）のお話を各組行い、避難訓練（火災、地震、不審者）を毎月実施できたかで判断	個別徴収と書面による評価内容	年間	○	・年齢に合った教材を使いながら、視覚で分かりやすく伝え、興味や意欲がもてるようにいろいろな保健指導をした。また声をかけたり見守ったりすることで、自分でしようとする姿が見られるようになっている。	○	・１年を通して季節にあった保健指導を各組行ったり、毎月健康カレンダーを配布して健康にちなんだ目標を設定して、家庭でも一緒に健康意識が高まるようにした。	○	・予測できないことにもとっさに対応をする必要があることも社会にいれば多いので、訓練のパターンがいろいろあるのは良い。「この時はどうするんだろう」と自分で考えられる機会が毎月あるのはとても意味のあることだと思う。また家庭でも一緒に考えていけるようにしたい。
			避難訓練など安全な生活に向けた取り組みを通して命や安全に対する意識を高める				○	・火災について２回、地震について２回、不審者対応について２回の避難訓練を実施した。回を重ねて徐々に、子どもたちは落ち着いて迅速に対応することができるようになってきている。	○	・毎月様々な場面を想定しての避難訓練を実施する中で、幼児は落ち着いて教師の指示を聞きながら避難行動をとることができるようになった。また、消防署の方にも来園して頂き、指導を受けることもできた。	○	
子育ての支援	保護者や地域との連携	就学に向けた不安や子育ての悩み等の解消に向けた取り組みを行う	まめっこ、ふたばぐみなど、未就学児対象の園内での見学や、体験等で園の雰囲気を知ってもらい入園に関することが円滑に進むようにする	９月願書配布からの相談、手続き等が円滑にできたかで判断	実施の状況	年間	○	・未就学児のお子さんが園の様子を知ってもらえるように今年度は「つくってあそぼう」も公開した。	○	季節に合った制作や活動を楽しんだり、年齢や幼児の姿を捉え、活動内容を考えるようにした。また、げきあそびも公開し、地域の方	○	・まめっこ・ふたばなど未就園児対象の活動は保護者同士で作り上げている面もあり、保護者同士のつながりもいい雰囲気で進められていると思う。
			保護者向けに保育、子育てにかかわる話教育相談の窓口を決め、相談しやすい体制にする		実施の状況	年間	○	・保護者向けにはいつでもお子さんの事で話しやすい雰囲気づくりを園全体で心がけた。学期終わりの個人懇談会の他、教育相談窓口の手紙を配布し随時相談を実施した。	○	にも楽しんでいただけた。まめっこさんの園見学の問い合わせも多くなり、一人ひとりに合わせた説明の必要性を感じている。今後も保護者の不安を受け止め、保育の手立てを教師間で話し合いながら地域の方に親しみを持っていただける園でありたい。	○	・未就園児の保護者の方も園の保護者に聞きやすい雰囲気である。実際に園の保護者の方から聞くことも園の生活をイメージしてもらいやすい。 ・地域の特質や良さを伝えるなど無理のない地域交流を模索してみてもほしいという願いがある。

園長より　園で大切にしている自分で考え、自分で選択し、自分で決めていく学びを深く理解していただいていることをうれしく思います。今後も一層、子どもと保護者と、地域とつながって、そのつながりを大切に、感謝しながら、三国丘幼稚園での学びをより深く推進していきたいと感じます。

評価者より　小さいころから人間関係を学ぶことは大切である。年少のころから様々な取り組みができていることは園の教育の効果であると思う。より一層、園の取組を保護者の方の意見も聞きながら一緒に取り組んでいってほしいと思う。またこの三国丘という地域を先生も保護者も子どもも知って、みんなで地域を好きで大切にする心をもっていてほしい。